

○ 3か月長期予報(12月～2月) 平成30年11月26日現在

今年の秋は、9月30日の台風24号の接近により、宮崎地方は、北から北西の暴風により、農作物や農業施設に大きな被害が出ました。

過去に台風の進行方向の左側に入った事例で、このような激しい暴風になったことは、極めて珍しく、今後上陸しない台風でもかなり接近する場合は、厳重な警戒が必要になってきます。

気象庁から、11月25日に3ヶ月長期予報が発表されましたので、その解説と注意点について解説します。

1 3か月予報(九州南部地方) 11月25日気象庁発表

(1) 気温

(2) 降水量

3か月平均	20	30	50
12月	20	40	40
1月	20	30	50
2月	20	30	50

3か月平均	30	30	40
12月	30	30	40
1月	30	30	40
2月	30	30	40

\*表の見方は、総合農業試験場のHP「農業気象情報①」でしています。

2 3か月予報の解説

(1) 気温

3か月の平均で、平年より高い予想です。月別では、12月は平年並みかやや高い傾向、1、2月は平年よりやや高い傾向の予想です。

この2年(平成28, 29年)は、1月、2月とも平均気温が平年より低い傾向になっていましたので、一転してこの冬は、やや暖冬傾向になる予想です。

その要因は、この秋からエルニーニョ現象が発生しているためで、発生すると暖冬傾向になるため、寒気が南下しにくく、南から暖かい空気が入りやすいためです。

しかし、過去に2015年の夏から2016年の春にエルニーニョ現象が発生した際は、暖冬傾向の中で、1月は大寒波となり、沖縄本島で観測史上初の雪を観測していました。この時は、えびの市加久藤で $-12.0^{\circ}\text{C}$ を記録していました。

この時は、北極振動(注1)が起きていたため、大寒波となっていました。

このように、暖冬傾向の中で、周期的な寒気の南下も予想されるため、寒暖の差が大きい冬になるのではと予想します。

## (2) 降水量

3か月の平均では、平年並みかやや多い予想です。月別でも同じ予想になっています。

この要因は、やはりエルニーニョ現象の発生で、暖冬傾向となり、南からの暖かく湿った空気が入りやすいためです。平年の冬の場合、宮崎地方は、冬型の気圧配置になりやすく空気の乾燥した冬晴れが続く傾向になりますが、暖冬の場合は冬型が長続きしないため、南からの湿った空気の影響を受けやすいため、曇りや雨の日が平年より多くなる傾向になりやすいです。

## 3 今後の傾向

最新の1か月予報では、気温が平年よりやや高い、降水量も平年よりやや多い傾向になっています。

ただ、週単位で見ると、気温は、12月中旬から平年並みになってくるため、このタイミングで寒気の南下が予想されます。その後1月から2月にかけても暖冬傾向の中で、周期的に寒気の南下があるのではと予想します。

このように、この冬の傾向は、かなり予想が難しくなっていますので、農作物の管理については、急激な温度変化に対応できるようにしてください。

### (注1)北極振動

冬場に起きる現象の一つですが、北極上空では、周期的に寒気が蓄積、放出が繰り返すのですが、北極振動が起きると、北極上空が+になり、中緯度が-になるため、寒気が高い方から低い方へ流れ出す現象です。

この現象が逆になっている時は、寒気が北極に集まった状態で、中緯度に向かわない状態で、暖冬になります。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二(気象予報士)